

## 第1章 都市づくりの基本方針

### 第1節 将来都市像

人口減少社会の到来や少子高齢化の進行、厳しい財政状況の継続が見込まれるなど、本市を取り巻く状況は変化しつつあり、そのようななかであっても、将来にわたり安心して暮らし続けられる都市の実現に向けて、市民の生活利便性の維持・向上や地域経済の活性化などにより、まちの活力向上を図る必要があります。

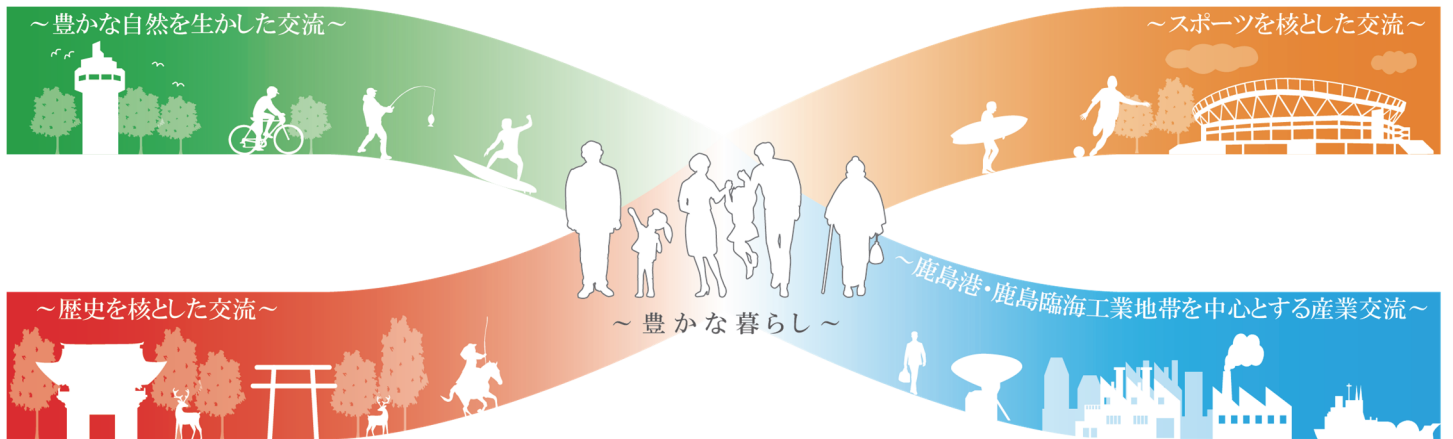
#### 『「ひと」がいるところに「まち」はできる』

その考えから「まち」の活力向上を図るためには、一定の定住人口の確保や交流人口の拡大が必要不可欠であるため、「ひと」が住みたいまち、働きたいまち、訪れたいまちを目指し、本計画における将来都市像を以下のとおり定めます。

#### ◆将来都市像◆

### 「鹿嶋らしさ」に磨きをかけ

### 豊かな暮らしと活発な交流が織りなすまち 鹿嶋



## <将来都市像の視点>

### ●鹿嶋らしさ

本市の特色である「スポーツのまち」、「歴史のまち」、「工業のまち」の3つの顔に、「豊かな自然環境」を加えた4つの地域資源です。

この地域資源を最大限に生かし、磨きをかけていくことで、都市としての活力及び魅力の更なる向上を目指します。

#### <「鹿嶋らしさ」を構成する4つの地域資源>

 <p>スポーツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋アントラーズのホームタウン</li> <li>県立カシマサッカースタジアム</li> <li>鹿嶋ハイツスポーツプラザ</li> <li>カシマスポーツセンター</li> <li>ト伝の郷運動公園多目的球技場、高松緑地多目的球技場 など</li> </ul>	 <p>歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本三大神宮のひとつ 鹿嶋神宮</li> <li>剣聖・塚原ト伝生誕の地</li> <li>鹿嶋神宮境内附郡家跡（国史跡）</li> <li>津賀城址、霜水寺西堂跡、比屋久内遺跡、夫婦塚古墳附陪塚（市史跡） など</li> </ul>
 <p>工業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋臨海工業地帯</li> <li>鹿嶋港</li> <li>世界を代表する鉄鋼の生産拠点</li> <li>鹿嶋宇宙技術センター など</li> </ul>	 <p>自然</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北浦</li> <li>鹿嶋灘</li> <li>水郷筑波国定公園</li> <li>ハマナス自生南限地帯（国天然記念物）</li> <li>鹿嶋神宮樹叢（県天然記念物）など</li> </ul>

### ●豊かな暮らし

成熟した都市的環境と、豊かな自然的環境を併せ持つ本市の特性を生かしつつ、「鹿嶋らしさ」の地域資源を身近に感じることのできる、本市固有の暮らしのあり方です。

本市での暮らしを通じて、日常生活の充実度・満足度を高めるとともに、将来にわたり住み続けたいと市民が思える都市の実現を目指します。

### ●活発な交流

スポーツ、歴史、工業、自然といった本市の地域資源を生かし、市内外から多くの人々が様々な目的で来訪・再訪・回遊・滞在することです。

活発な交流により、まちに賑わいを生み出すとともに、本市の魅力を市内外へアピールしていくことで、まちの発展や定住人口の確保につながる都市の実現を目指します。

#### <地域資源を生かした主な交流>

- サッカー観戦やスポーツ大会参加などスポーツを核としたレクリエーション交流
- 歴史散策や郷土学習など歴史資源を核とした文化交流
- 鹿嶋港・鹿嶋臨海工業地帯を中心とする広域的な産業・ビジネス交流
- サイクリングや海水浴、釣りなどの豊かな自然環境を生かした観光・レジャー交流

## 第2節 将来都市像を実現するための基本目標

都市づくりの主要課題を受けて、将来都市像を実現するために、都市づくりの基本目標を以下のとおり定めます。

### 基本目標 1

#### 持続可能な都市づくり

多様な暮らし方を可能としてきた都市づくりの蓄積を生かしつつ、都市機能の集積やまとまりのある居住地の形成、公共交通によるアクセス機能の確保により、必要なサービスを市民が享受できる「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造への転換を図ることで、定住人口の確保や都市経営などの面で予想される厳しい条件下においても、市民が将来にわたって安心して暮らし続けられる『持続可能な都市づくり』を目指します。

### 基本目標 2

#### 賑わい溢れる都市づくり

「鹿嶋らしさ」を構成する地域資源を最大限に活用しながら、市民が外出しやすい環境や市内外の人々が来訪・再訪・回遊・滞在を楽しむ環境、産業の発展に資する環境の形成などに取り組むことで、将来にわたって『賑わい溢れる都市づくり』を目指します。

### 基本目標 3

#### 自然・歴史・文化を守り、生かす都市づくり

本市の個性を象徴する地域資源は、市内外との活発な交流の源であると同時に、市民が本市に対する愛着を育むきっかけとなる貴重な財産として捉え、その財産を次の世代に繋いでいくことで、将来にわたり『自然・歴史・文化を守り、生かす都市づくり』を目指します。

### 基本目標 4

#### 安全・安心な都市づくり

誰もが住み続けたい、住み続けられると感じられる都市の実現に向けて、「豊かな暮らし」や「活発な交流」の前提となる災害に強い都市づくり、日常生活における身近な危険性にも配慮した都市づくりの推進を通じて、『安全・安心な都市づくり』を目指します。

### 第3節 将来目標人口の設定

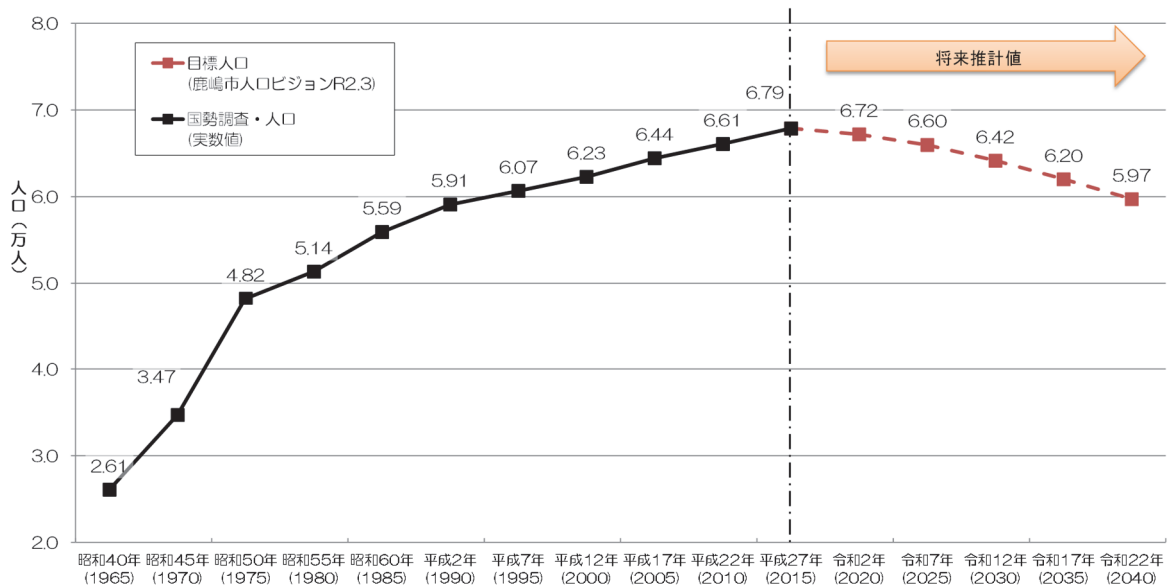
本市の人口は、鹿島開発に伴い昭和50年代にかけて急増し、その後も緩やかに増加してきました。しかしながら、本市や国が行った各種推計によれば、今後、本市の人口は減少していくことが予測されています。

本計画における将来目標人口は、鹿嶋市人口ビジョンの将来目標人口と整合を図り、以下のとおり設定します。

本計画の目標年次の人口：約60,000人

【参考】基準年次：令和3年（2021年） 目標年次：令和23年（2041年）

図 人口推移の実績と鹿嶋市人口ビジョンにおける将来目標人口



【資料】国勢調査，鹿嶋市人口ビジョン（令和2年3月）

## 第4節 将来都市構造

### 1 将来都市構造の設定

本市の将来都市構造を以下のとおり設定します。

図 将来都市構造図



本市の都市構造は、以下の4つの要素で構成します。

### ①都市の中で特徴的な機能が集積する『拠点』

#### ○複合都市拠点

市民の便利な生活や人々の活発な交流を生み出す多様な都市機能が集まり、本市の暮らしや交流の中心となる場所

#### ○都市拠点

複合都市拠点を補完し、一定の都市機能が集まり、地域住民の生活の中心となる場所

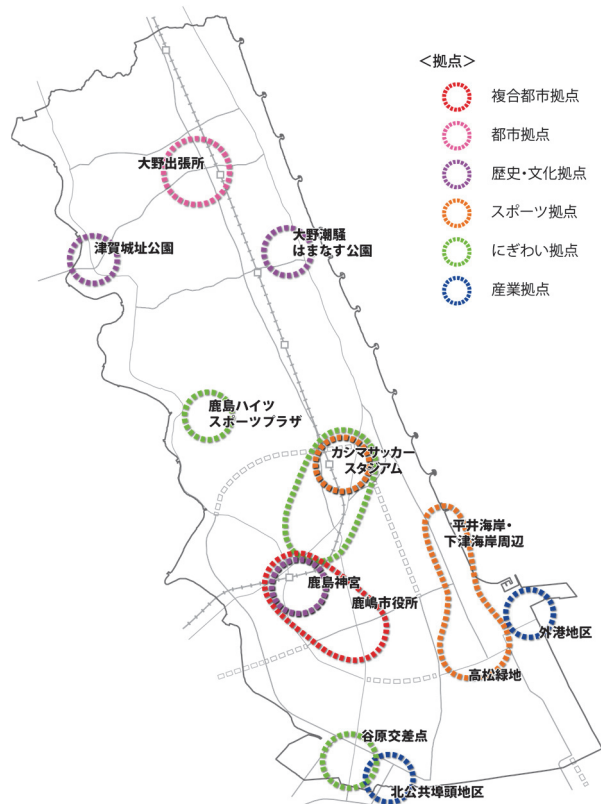
#### ○歴史・文化拠点、スポーツ拠点、

にぎわい拠点

市内外から多くの人々が来訪・再訪・回遊・滞在するための「鹿嶋らしさ」の要素を有し、余暇活動などを通じた交流の拠点となる場所

#### ○産業拠点

鹿嶋臨海工業地帯の一角として主に港湾機能を有し、国内と国外とを繋ぎ、広域的な物流の中心としての役割を担う場所



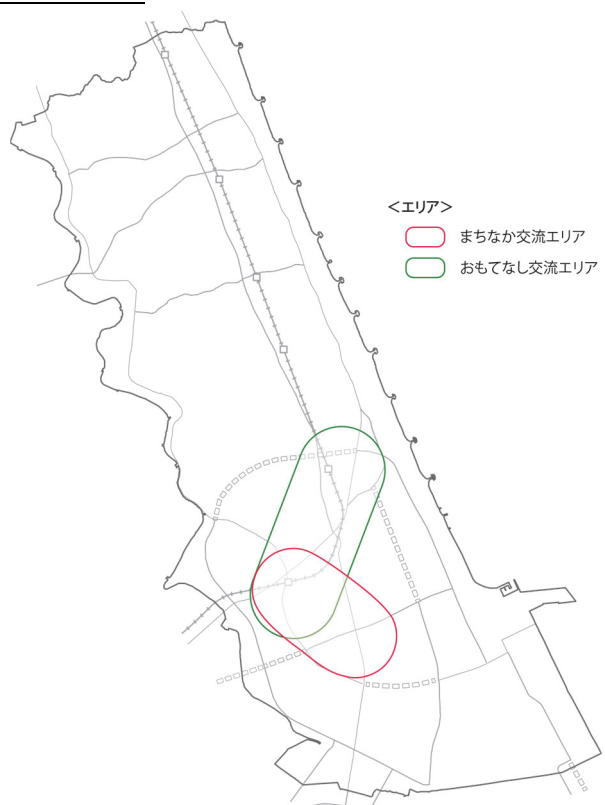
### ②拠点が連携して本市の顔としての空間を作る『エリア』

#### ○まちなか交流エリア

異なる性質を有する拠点が互いに連携することで、日常生活を営む市民の様々な目的での来訪・回遊を促進し、本市の顔としての空間を形成する場所

#### ○おもてなし交流エリア

公共交通の利便性を生かしながら、交流を主とした各拠点が相互に連携することで、市内外からの人々の来訪・再訪・回遊・滞在をより一層促進し、本市の顔としての空間を形成する場所



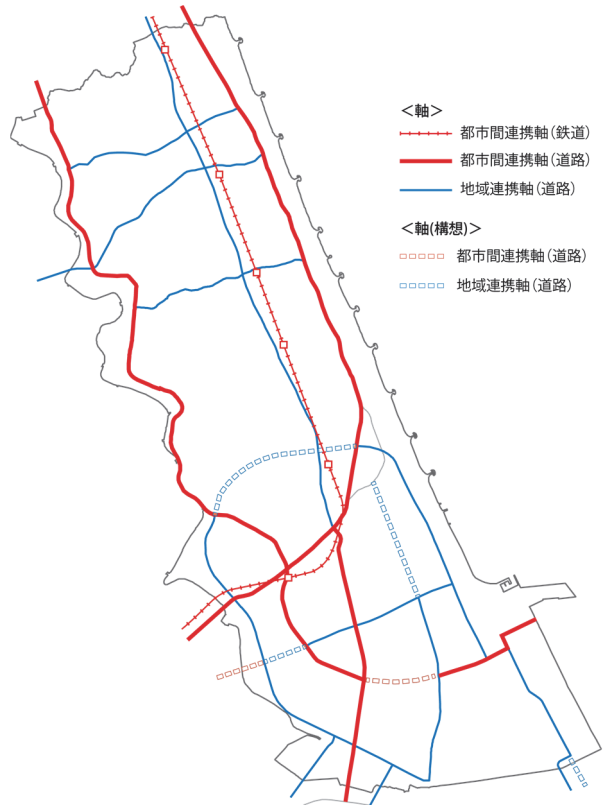
③都市間及び拠点間を結ぶ『軸』

○都市間連携軸

本市と広域圏を結び、市民生活及び産業活動や観光などを通じた活発な交流を支える鉄道や道路

○地域間連携軸

都市間連携軸を補完し、市内の拠点間や本市と周辺都市を結び、市民生活や産業活動・交流などを支える道路



④拠点及び軸を踏まえ土地利用の基本的な方向性を示す『ゾーン』

○市街地ゾーン

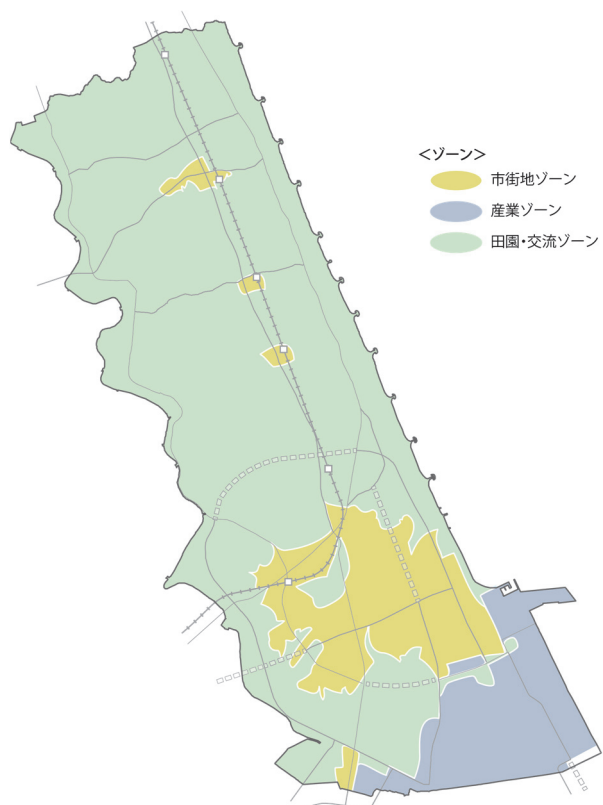
主に住宅地や商業・業務地といった都市的土地利用の誘導を図り、都市的な暮らしや交流を提供する地域

○産業ゾーン

主に工業機能や港湾機能、流通業務機能の誘導により、産業の振興を図る地域

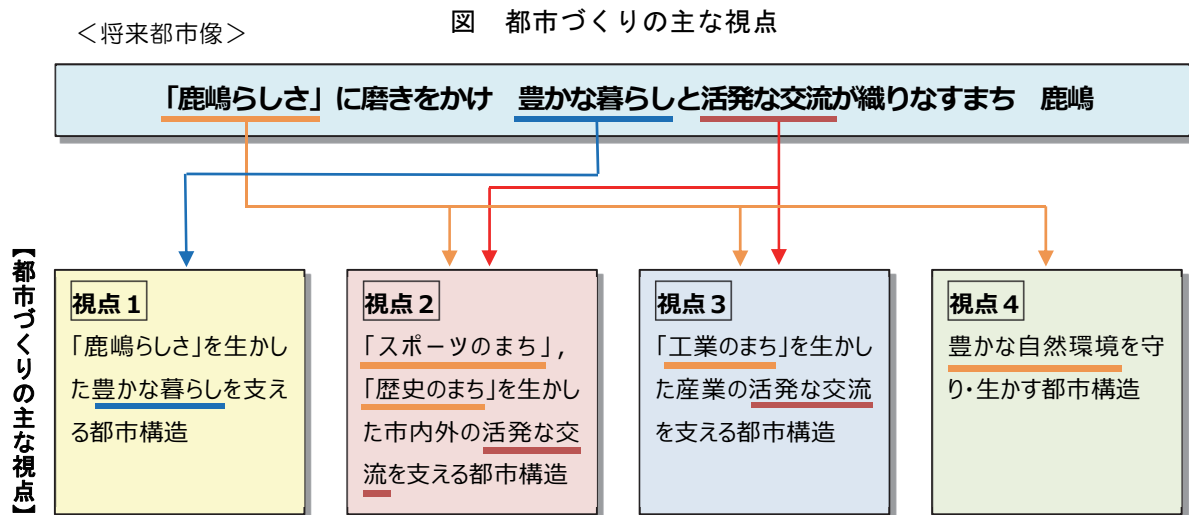
○田園・交流ゾーン

農地、森林といった自然的土地利用を基本としつつ、自然と調和した暮らしや人々の交流を提供する地域



### <参考：将来都市構造から見た都市づくりの主な視点>

将来都市像の実現に向けた都市づくりの主な視点と、各視点に基づく都市構造の目指す姿を整理すると、以下のようになります。



### 都市づくりの視点1

#### 「鹿嶋らしさ」を生かした豊かな暮らしを支える都市構造

##### <都市構造の目指す姿>

##### ■ 複合都市拠点・都市拠点を核とした生活利便性の確保

- 市民の生活や交流を支える多様な都市機能が集まり、本市の核となる複合都市拠点（鹿嶋市役所周辺～鹿島神宮駅周辺）を形成します。
- 複合都市拠点（鹿嶋市役所周辺～鹿島神宮駅周辺）を中心に、その周辺にまとまりのある居住地や身近な都市機能を有する市街地を形成します。
- 複合都市拠点を補完し、大野区域周辺の市民生活を支える都市機能が集まる都市拠点（大野出張所周辺）を形成します。
- 都市拠点（大野出張所周辺）や鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の鉄道駅周辺において、豊かな自然に囲まれながら、近隣住民の日常の暮らしを支える施設や公共交通が利用しやすい市街地を形成します。
- 複合都市拠点を中心に、都市間連携軸及び地域連携軸による各拠点間の移動性の向上を図ることで、市民の暮らしを支える都市構造を形成します。

##### ■ 日常生活のなかで「鹿嶋らしさ」を身近に感じられる暮らしの場の形成

- 複合都市拠点（鹿嶋市役所周辺～鹿島神宮駅周辺）と歴史・文化拠点（鹿島神宮周辺）が相互に連携し、本市の歴史や文化を身近に感じられるまちなか交流エリアを形成します。
- 日常生活のなかで市民がスポーツ、レジャー、買物などを気軽に楽しむことができるように、市街地内及びその周辺でスポーツ拠点、にぎわい拠点を形成します。
- 市内の各拠点を身近に感じるとともに、誰もが気軽に訪れることができるように、市内各地から各拠点への移動性を確保します。

図 「鹿嶋らしさ」を生かした豊かな暮らしを支える都市構造



都市づくりの視点2

「スポーツのまち」、「歴史のまち」を生かした市内外の活発な交流を支える都市構造

＜都市構造の目指す姿＞

- それぞれの拠点内の中核的施設の特徴及び拠点周辺の都市環境を考慮して、個性と魅力を兼ね備えたスポーツ拠点、歴史・文化拠点、にぎわい拠点を形成します。
- 歴史・文化拠点（鹿島神宮周辺）とスポーツ拠点（カシマサッカースタジアム周辺）、にぎわい拠点（鹿嶋市まちづくり市民センター周辺～カシマサッカースタジアム周辺）が相互に連携し、市内外から様々な目的を持った人々が訪れ、隣り合う拠点間を回遊し、滞在することにより、多くの人々が行き交う交流の場となるおもてなし交流エリアを形成します。
- 来訪時のアクセス利便性の向上、市内各地に分布する各拠点間の相互連携を強化するため、都市間連携軸及び地域連携軸による拠点間の移動性・回遊性を確保します。

図 「スポーツのまち」、「歴史のまち」を生かした市内外の活発な交流を支える都市構造



都市づくりの視点3

「工業のまち」を生かした産業の活発な交流を支える都市構造

<都市構造の目指す姿>

- 産業集積地としてのまとまりの維持及び鹿島港の機能向上により、生産性・利便性に優れた産業ゾーンを形成します。
- 隣接する住居系市街地との交通アクセス機能を強化することで、職住近接の更なる充実を目指します。
- 産業ゾーンが有する広域物流機能の更なる充実を図るため、都市間連携軸及び地域間連携軸による移動性の向上や鹿島臨海工業地帯から東関東自動車道への新たな都市間連携軸の形成を図るとともに、産業拠点の流通業務機能を維持・向上します。
- 谷原交差点周辺においては、鹿島臨海工業地帯に隣接した特性を生かし、従業者や近隣住民の生活と交流を支える機能が集積した、賑わいを生み出す拠点の形成を目指します。

図 「工業のまち」を生かした産業の活発な交流を支える都市構造



都市づくりの視点 4

豊かな自然環境を守り・生かす都市構造

<都市構造の目指す姿>

- まとまりのある農地や森林，鹿島灘及び北浦に面する水辺空間の保全と活用により，自然豊かな田園・交流ゾーンを形成します。
- 自然環境との調和を図るとともに，将来の人口減少への対応，災害リスクの回避・軽減を考慮しながら，まとまりと持続性を兼ね備えた集落地を形成します。
- 集落地における生活環境と市内外との交流を支えるため，都市間連携軸及び地域連携軸による市内各拠点への移動性を確保します。

図 豊かな自然環境を守り・生かす都市構造図

